

西上州七日市藩にまつわる出来事の年表

山本一之丞にまつわる歴史事項

(宮脇一之丞)

元和元年(一六一五)加賀藩に切支丹禁令の正式高札
前年切支丹大名高山右近等ルソン追放さる
明和七年(一七七〇)金沢宮の腰で誕生、父北前船の
船頭山本勝蔵と妻春江の長男で生まれる

天明五年(一七八五) 御細工組本多重兵衛邸で中間
奉公に入る 眼を掛けられ足輕に採用される、
天明八年(一七八八) 一之丞初上洛 京都で大火遭遇
重兵衛と共に海老屋村上文蔵の知遇を得る

寛政二年(一七九〇) 甲比丹の出府四年に一度改正
寛政三年(一七九二) 二十一歳で結婚 寶来丸船主の
仲人で質屋の娘三歳年長の渋川美代を娶る
十石扶持の土分に昇格する 重兵衛代理で単
独二回上洛の密命 海老屋の修業半年間で
蘭薬情報 秘薬龍腦入手に成功する
寛政四年(一七九二) 百石取出世す 加賀藩江戸詰転籍
宮脇家養子に入り宮脇一之丞と改名 高山
権乃進共に若年寄配下の御裏組所屬となる
以後二人京・大坂・江戸を往復し活躍する

文化七年(一八一〇) 一之丞四十歳 七日市藩転籍する
家老保坂万右衛門一之丞薬事奉行に任命さる
「精得園」開削し薬草の栽培開始する
文政六年(一八一三) シーボルト長崎出島に上陸する
文政十一年(一八二八) シーボルト事件発覚
日本地図漏洩疑獄で高橋作左衛門景保捕縛さる
連座した役人・学者・通詞市五郎も処罰入牢す

天保十三年(一八四二) 一之丞調合処方箋を残し逝去

宮脇一馬・七日市藩歴史事項

(四万の竜吉)

元和二年(一六一六)一万十四石の七日市藩創設
加賀藩前田利家の五男前田利孝が移封される
元和三年(一六一七) 検地帳にて町名の富岡起る

天明三年(一七八三) 浅間山大噴火
藩の被害も甚大となり加賀藩の支援を受ける
農民は門松も立てず餅もつけぬ状態となる
天明六年(一七八六) 甘楽郡一帯三尺の大雪
春の大霜により桑に大被害、農民尽く困窮し
下仁田で穀問屋の打ち壊し

寛政四年(一七九二) 七日市藩邸焼失
寛政五年(一七九三) 富岡中町の大火災
寛政八年(一七九六) 赤毛の一馬誕生 父は一之丞
母は海老屋文蔵の養女で混血・碧眼のお筆

寛政十年(一七九八) 労咳癒えたお美代一馬を養育
享和二年(一八〇二) 江戸蘭方医宇田川玄真の私塾に
一馬入塾 塾生に虐待受け挫折し悪癖に染む
文化二年(一八〇五) 権乃進 一馬に礫投げを教える
文化六年(一八〇九) 中之条「弥王園」に放逐される
文化九年(一八一二) 須藤岡之進の切腹事件
文化十四年(一八一七) 四万から七日市藩に竜吉移籍
文政三年(一八二〇) 竜吉脱藩し江戸から長崎へ逃走

「礫の竜」の異名を取り情婦お甲と同棲する
通詞市五郎により内通詞・下つ引き職を得る
文政十二年(一八二九) 権乃進と市五郎奪還策を密談
市五郎四十八歳七日市藩に護送され入牢す
天保七年(一八三六) 天保の大飢饉おこる
七日市藩は加賀藩本家より財政援助を受ける
天保十一年(一八四〇) 市五郎五十九歳で獄死する
藩主利和悼んで金剛院に葬り墓碑を建立

天保十三年(一八四二) 富岡大火災 藩邸類焼し焼失
竜吉「弥王園」跡目を継ぎ三代目弥吉名乗る